

はじめに

須賀川市立博物館は、首藤保之助が収集した5万点に及ぶ考古資料「阿武隈考古館コレクション」の寄贈を契機に、須賀川市民の教育に寄与する文化拠点として、昭和45年8月に福島県内初の公立博物館として開館しました。開館以来収集している須賀川・岩瀬地方に関する自然・考古・歴史・民俗・美術分野の資料は、現在では重要文化財3件を含め13万点以上のコレクションとなりました。これらは、須賀川市民にとっての宝であると同時に、地域の歴史と文化の多様性を知るうえで欠かせない、日本の宝でもあります。

須賀川市立博物館条例第1条には、設置目的として「市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、須賀川市立博物館を設置する。」と定義しています。当館は、市の総合計画をはじめ、教育、都市整備、中心市街地活性化など市政各分野の計画と、歴史文化に関わる全体的な計画「須賀川市歴史文化基本構想」に基づき、この設置目的を果たすための各種事業を展開しています。

近年、博物館を取り巻く状況に大きな変化が生じる中で、当館では、博物館法や関連法令、第26回 ICOM(国際博物館会議)大会によって示された博物館の役割なども踏まえ、現代に必要とされる博物館の姿を目指し、ここに「使命(ミッション)」と「活動方針」を設定します。

使命(ミッション)

須賀川市立博物館は、須賀川・岩瀬地方の特色ある歴史や文化についての資料を収集・保存・研究・公開・活用することにより、

- 現在・過去・未来の須賀川市民がつながりあい、安らぎや生きる力を得られる場所となります。
- 地域のなりたち・個性(歴史・文化)への愛着を育み、多様性への理解と共感を広げます。
- あらゆる世代に対する学習機会を提供します。
- 地域社会の活性化に寄与します。

活動方針

須賀川市立博物館は、須賀川・岩瀬地方の文化財の保全と活用に根差した研究・教育・交流の場として機能し、使命を果たすため、下記の方針に基づいて活動します。

先人が蓄積してきた須賀川の宝を守り、新たな宝を集め、価値を明らかにします。

1) 収集・保存

須賀川・岩瀬地方に関する人文学分野を中心に、地域の歴史・文化に関する特徴ある資料を収集し、後世へ継承するために保存します。

収集した資料を良好な状態で後世へ継承するため、計画的な修復や保存環境の調査を行います。

2) 調査・研究

収集した資料についての調査・研究を行い、文化財としての本質的価値や、地域の歴史と文化の特徴を明らかにします。

須賀川の宝の価値をわかちあい、未来へ伝えるための中枢となります。

3) 展示・公開

収集・保存している資料及びその調査・研究成果について、資料の展示や出版などにより積極的に公開します。データベースやデジタルアーカイブを整備し、資料や調査研究成果の公開と活用を促進します。

4) 施設の維持管理と運営

資料の保管や鑑賞のための適切な環境を整備するため、施設・設備の点検や計画的な修繕と機能充実を図ります。感染症や災害などから来館者・職員の安全を確保するための体制を整備します。

博物館をとりまく人が、須賀川の過去と現代の経験を未来へ受け継ぐ過程を共有します。

5) 協働・連携

資料の収集・保存・調査・研究・展示・公開について、学校・大学・地域団体・市内公共施設・市民と協働・連携して取組みます。

6) 教育普及

収蔵資料についての知識や調査研究成果を広く普及し、幅広い利用者の知的好奇心に応える講座やプログラムを企画し、館の内外で実施します。

多様な文化や生き方を認め合い、人との繋がりをつくります。

7) 多様な利用者への対応

障がいの有無・年齢・性別・国籍にかかわらず、希望する利用者が博物館にアクセスしやすい運用を推進します。

活動方針に基づく具体的な取り組み

須賀川市立博物館では、活動方針に沿って各種取組を展開し、使命の達成を目指します。

1) 収集・保存

○「博物館資料収集基準」に基づき、寄贈・寄託の受け入れ・借用・購入等の手段によって須賀川・岩瀬地方に関する人文学分野を中心に、地域の歴史・文化に関する特徴ある資料を体系的に収集します。

○計画的な資料の修繕を実施します。

○資料の保存環境を定期的に調査し、良好な状態に保ちます。

2) 調査・研究

○収蔵資料や館外の関連資料について継続的に調査研究を行います。

○資料の貸借や職員の交流、情報交換などを通じて、他館や研究機関との連携を図り、施設が有する専門知識を活用し、調査研究を促進します。

3) 展示・公開

○確実な情報及び研究に基づく正確な資料を基に、須賀川・岩瀬地方の歴史や文化の特徴について、通年公開する常設展と、期間限定の企画展の実施によって紹介します。

○博物館内外の研究者や研究機関の調査動向や研究成果を踏まえ、展示内容と方法などを随時更新します。

○収蔵資料のデータベースやデジタルアーカイブを整備し、資料の保全と公開活用を促進します。

4) 施設の維持管理と運営

○資料の素材や状態に対応した快適な鑑賞が可能な展示・収納環境を整えるため、温湿度、空気質等に係る設備の設置と点検、計画的な修繕と機能充実を図ります。

○感染症の拡大や自然災害、地震、事故等から資料・利用者・職員の安全を確保するため、危機管理マニュアル等の見直しを図るとともに、研修や訓練により適切に対応する体制を整えます。

○館長・学芸員等専門職員・事務職員など各業務担当が連携して博物館運営を推進します。

○アンケート調査等によって利用者の需要を把握し、調査研究や展示事業の計画に反映します。

○資料・データ・統計の公開方針を定め、知的財産と個人情報適切に管理します。公開情報の範囲と手続を明確化します。

○来館者数・講座参加者数・地域連携イベント件数・寄附寄託件数・資料データベースの利用状況等を指標化し、毎年度評価のうえ、適宜取り組みを見直します。

5) 協働・連携

○「須賀川市立博物館友の会」をはじめとする有志や関係団体等と協働し、資料の所在調査・資料整理・関連行事や展示の企画等を行います。

○小中学校・高校・大学等と協働し、調査研究や教育普及活動の企画・運営等を行います。

○教育施設・公共施設・文化施設と協働し、調査研究や講座、サテライト展示の企画運営や講師派遣等を行います。

○観光・まちづくり・健康・福祉など関連分野と連携を図りながら、地域づくりに貢献します。

6) 教育普及

○学校連携プログラム、地域住民向け講座、オンライン講座等を企画・運営し、調査研究結果を市民などへ還元します。

○部活動や職場体験、インターンシップ、博物館実習に対応し、文化芸術に関する単元や総合学習・総合探求等への需要に応えるとともに、博物館の業務や社会的役割についての周知を図ります。

○多様な世代が親しみを持って地域の歴史や文化に触れ、体験できる機会を創出します。

7) 多様な利用者への対応

○触れる展示、聞く展示、作る展示など、視覚以外の感覚で利用できる展示や講座を企画・運営します。

○デジタルアーカイブ等の整備により、来館できない利用者が博物館資料を活用できる仕組みを

構築します。

○子どもや高齢者など多様な世代の関心及び特性に応じた解説を行うとともに、多言語化への対応も視野に、国内外の来館者が容易に博物館や収蔵資料の情報が得られ、興味関心が広げられるようサービスの提供に努めます。

結びに

須賀川市立博物館の使命と活動方針は、当館の果たすべき社会的役割の意思表示として、市ホームページ等で公開、周知します。また、この使命と活動方針に基づいた効果的な事業を推進するため、毎年度取り組みの評価を行うとともに、社会情勢の変化に合わせて見直しや改善を図っていきます。

須賀川市立博物館は、地域の歴史と文化を大切にしながら、市民と共に歩んでいきます。

今後も地域社会との連携を深め、多くの人々に愛される博物館として運営してまいります。

